

# 地域密着型サービス 介護・医療連携推進会議 報告書

施設名：薫風 24 ケアサポートセンター  
施設種類：定期巡回・随時対応型訪問介護看護

時期：令和 5 年 3 月 29 日(書面にて)

報告者  
(人数)

利用者代表	1 人	有識者	1 人
利用者家族	1 人	高齢者あんしん支援センター職員	1 人
地域住民の代表	1 人	出雲市職員	1 人
その他（寿生訪問看護ステーション）			1 人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今回も書面会議を行いました。

(議題)

## I. 事業活動報告

### 《①利用状況報告》

月	R4 年 3 月	R4 年 4 月	R4 年 5 月	R4 年 6 月	R4 年 7 月	R4 年 8 月
人数	20 名	18 名	18 名	17 名	16 名	18 名

月	R4 年 9 月	R4 年 10 月	R4 年 11 月	R4 年 12 月	R5 年 1 月	R5 年 2 月
人数	20 名	19 名	18 名	16 名	16 名	17 名

令和 5 年 2 月末現在

要介護 1 ⇒ 6 名

要介護 2 ⇒ 7 名

要介護 3 ⇒ 3 名

要介護 4 ⇒ 1 名

要介護 5 ⇒ 0 名

平均介護度 1.94

### 《②事例報告》

90 歳代 女性 要介護 2

#### 【既往】

慢性心不全に加え、度重なる転倒と骨折を繰り返し、令和 2 年 1 月より薫風の丘に入居されていた。当初は訪問介護サービスで週 1~2 回の入浴介助や自室内の掃除のサービスと通所介護サービスを受け生活されていた。

#### 【利用開始の流れ】

心不全の病状的には医師より入院加療を強く勧められるが、家族様が「入院生活ではなく、最後まで人間らしく生きて欲しい」との思いもあり、薫風の丘での生活を継続する決

断をされた。誤嚥性肺炎や心不全の増悪を繰り返してきたことで、徐々に機能低下も見られるようになってきた。加えて認知機能の低下もあり、日に何度も見守り・誘導・介助が必要となり、令和5年1月より定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスに移行された。

### 【経過】

食事はミキサー食、水分にもトロミが必要で少量でも必ずトロミ剤を使用している。食後には毎回の服薬確認と点眼薬の介助が必要となっている。

紙パンツや尿取りパットを使用しトイレに行かれるが汚染もあり、自尊心を傷つけないように配慮しながらも汚染の確認と更新の介助を行っている。

認知機能の低下からエアコンや照明器具の操作が出来なくなり、快適な生活環境になるよう都度調整を行っている。また規則正しい生活が送れるよう時間に応じた誘導・声掛けを行っている。

高齢でもあり介助量は今後も多くなる可能性があるが、自分でできにくい事は随時見直しをしながらも家族様の意向でもある「人間らしい生活の継続」を目指し、安心した生活が送れるよう支援していく。

### 《③今後の課題》

近隣地域にとって必要不可欠なサービスとなるよう、施設外での定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスを展開していく。（現在サービスに対する相談が進行中）

### 《④サービスの質の向上にむけての取り組み》

利用者様にサービスを提供する際は、その日の利用者様の状態に応じた声掛けやケアが行えるよう ICT を活用し日々の情報共有を行っている。

また事業所内の職員同士の情報交換のみならず、必要に応じて利用者様に係る他事業所の方とも密な情報交換を行っている。

### 《⑤その他》

日々新型コロナウイルスの感染対策に努めていましたが、令和5年2月27日に入居者様に陽性を確認し、以後感染が拡大した事で、ご利用者様には大変ご不便をおかけしました。定期巡回サービスにおいては、ご利用者様の施設内における行動制限もありこれまでと同様のサービスを実施する事が出来ない期間もありましたが、グループ法人からの職員協力もあり、施設全体としては3月20日に終息を向かえる事ができ、現在では通常の生活を取り戻されています。今後はよりいっそう全ての職員が感染対策に努めながら業務を行っていきます。

## II. 質疑応答

質問①：必要なタイミングで必要な量の支援をされる、定期巡回サービスは利用者の皆さんにとって心強い事と思います。また ICT を活用しての情報共有は状態変化に細かく対応できるなど、支援するスタッフにも、もちろん利用者にも良い取り組みのように思います。今後の課題として、施設外でのサービス展開をあげられておりましたが、過去に施設外への訪問例がありましたら、事例報告として紹介していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

『回答：施設外での定期巡回サービスを実施し、地域にとって必要とされるサービスとならなければいけないと思っています。実はこれまで施設外での事例が1例もありません。』

今後はケアマネさんを通してこのサービスの有効性を広報し、いかに定期巡回サービスが在宅で過ごされている方にとって、必要不可欠のサービスであるかを事例紹介としてご報告していけるようになりたいと思います。』

質問②：ICT を活用した情報交換を行っていらっしゃるようですが、なかなか文章だけでは伝わりにくい事もあるのではないかと思います。もちろん他事業所の方との情報交換も必要ではありますが、まずは事業所内の意見交換をしっかりとしたいです。

『回答：ICT での情報交換は文章だけではなく、写真や動画での情報交換も可能です。しかし機器に頼るだけでなく、事業所内の職員同士のコミュニケーションも大事な事なので、その都度その都度情報を交換しながら、当事業所としての意見を一つにまとめていきたいと思っています。』

質問③：この度はコロナ感染者によるクラスターとなり、大変であったと思います。感染対策と言っても①自分が感染しない②自分が媒体とならない(自分が訪問する事で利用者を感染させない)という2つの意味があるように思います。今後も各種感染症が発生した場合のシュミレーションが必要ではないでしょうか。

『回答：今回の反省点の一つとして、職員会議の時に初期対応の遅れ・日々の感染対策の甘さがあげられました。業務継続計画(BCP)の作成と共に、今回の経験をもとに今後の対策につなげていきたいと思っています。』

質問④：今後の課題について、近隣地域へのサービス提供に対する相談が進行中とのことですが、現在の進捗状況を教えて欲しい。

『回答：利用者さまやご家族の意向によって介護サービスが導入されるため、現時点ではサービスの開始日時が決定していないが2例の依頼ケースがある

ケース① 介護度 申請中(要介護4~5) 女性 70代後半

夫と二人暮らし 夫は介護未経験で何が出来るのか?どうすればいいのか?

自宅での生活に置いて不安が高い

現在入院中であるが4月24日以降に自宅退院予定

現在のケアプラン モーニングケア・排泄介助・服薬介助で毎日朝に訪問介護として訪問予定、当面は訪問介護サービスで対応

状況を見て訪問回数を増やしていく必要性が考えられる

⇒定期巡回サービスへ移行 予定

ケース② 介護度4 現在寿生病院に入院中

主介護者は夫 他の家族の関りはほとんどない

以前にも入院経験があったが本人の強い意志で自宅へ強行退院した経歴あり

3月28日に入院されているので近く自宅へ帰りたいたいと意思表示を出される可能性が高い。

必要な介護 3回/日の食事介助、服薬確認、排泄介助

⇒定期巡回サービスでなければ在宅での支援が困難とケアマネの判断

質問⑤：サービスの質の向上に向けての取り組みについて、他事業所との密な情報交換をどのように実施されているか、具体的に教えて欲しい。

『回答：出雲市からのご指導もあり、これまで介護が単独で作成していたモニタリングシートに訪問看護からの意見が反映できるよう書式を変更し、多職種で作成するシートとした。これを毎月ケアマネに報告し情報提供・情報交換を行っている。多方面からの評価が出来る事で利用者さまにとってより良いサービスへとつなげていけるようにした。更に定期巡回サービスを行っている事業所は少ないが、近隣で実施している事業所と情報交換を行う機会を持ち、それぞれにサービスの質の向上へ向けて、更には出雲地域へ貢献できるサービスとして展開していけるようお互いに切磋琢磨している。

令和5年2月27日より薫風の丘施設内に置いて新型コロナウイルスの感染者が判明し、その後対応に追われていた事もあり、表題の会議の開催が遅れました事、深くお詫び申し上げます。